

DW303

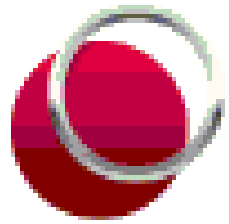
【SOMPOシステムズ株式会社様】
損害保険ジャパン日本興亜の抱える
課題解消に向けたシステムイノベーション

SOMPOシステムズ株式会社
ITシステム本部

明田川 裕史 様

#vforumjp

POSSIBLE
BEGINS
WITH YOU



損保ジャパン日本興亜

の抱える課題解消に向けた
システムイノベーション

2018.11.13

SOMPOシステムズ株式会社

明田川裕史

会社概要



SOMPO ホールディングス

売上高 (2017年度)

3兆7,700億円

純利益 (2017年度)

1,398億円

社員数 (2018年3月末)

約80,000人

国内生保事業

○損保ジャパン日本興亜ひまわり生命

海外保険事業

○世界30カ国・地域、218都市

国内損保事業

○損保ジャパン日本興亜
○セゾン自動車火災
○そんぽ24 等

介護・ヘルスケア事務等

○SOMPOケア
○プライムアシスタンス
○フレッシュハウス 等

目指す姿

安心・安全・
健康の
テーマパーク



損保ジャパン日本興亜



・社員数※₁ 26,189名(男性10,581名 女性15,608名) ※女性比率59.6%

・創業 1888年(明治21年) 10月

・代理点数※₁ 56,340店

・営業課・支社・営業所※₂ 568

・正味収入保険料※₁ 2兆1,680億円

・国内拠点 営業部・支店※₂ 127

・保険金サービス拠点※₂ 288

※₁:2018年3月31日現在 ※₂:2018年4月1日現在

保険の先へ、挑む。

プレゼンター紹介

現職

2016年SOMPOシステムズ入社
※社会人歴では2000年入社

経歴

ソフトハウス、他ユーザ系Sierを経験

スキル

C言語、java
WindowsServer、Windows、VMware

現在

windows10／Hrizon7でシンクラ更改中

プレゼンの流れ

損保ジャパン日本興亜社の抱える課題




課題解消におけるシステム化方針とVMwareの位置づけ



開発中における気づき（良かったこと・悪かったこと）



VMwareへの期待事項



今後の展望

損保ジャパン日本興亜社の抱える課題



損保ジャパン日本興亜

は課題を抱えています・・・



課題内容

課題①

<機動性が低い>

社外持ち出し時にトークン・wifiルータ・PCと持ち出しアイテムが多く、PCも重い。立ち上げにも時間がかかる。

→ 営業社員のPC社外持ち出し率が低い

課題②

<拡張性が無い>

任意のSW導入要件に対して「性能面の拡張性」や「非マルチユーザ非対応の制限」によりスピーディーかつ低コストでの導入が出来ない

→ とりまく変化（ダイバーシティ、デジタル化、働き方改革）についていけない

課題③

<性能面の問題>

現行システムでは任意のユーザが多くのリソースを利用した場合、他ユーザに影響を与えてしまう。

ビジネスインパクト

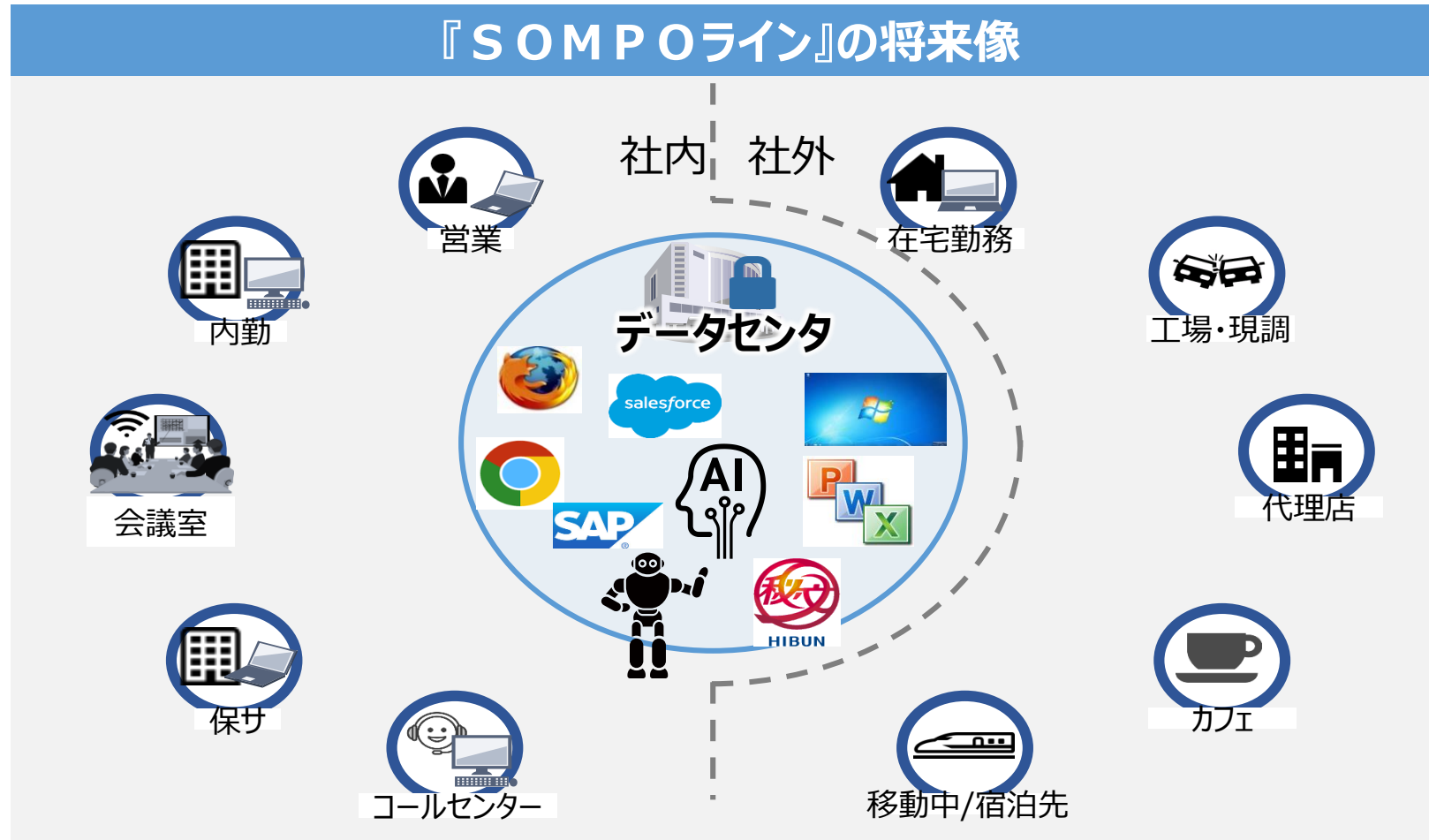
ビジネスチャンスの喪失

IT投資コスト増大

業務効率の低下

課題解消におけるシステム化方針とVMwareの位置づけ

課題解消のために以下のコンセプトにて、「SOMPOライン」と命名したシステムを開発中
まずは営業・内勤が利用するシンクライアント（23,000台規模）の更改を行っている。



コンシューマーレベルの利便性とエンタープライズレベルのセキュリティを適正なコストで実現

各課題に対する対応方針

課題①

＜機動性が低い＞

- レ 端末の軽量化
- レ VPN接続（外出先からの接続）方式の見直し

FUJITSU



課題②

＜拡張性が無い＞

- レ VSAN技術の採用（HW拡張の容易さ向上）
- レ SBC（サーバOSの共用利用）からVDI（各ユーザにクライアントOS割り当て）に方式変換

vmware

課題③

＜性能面の問題＞

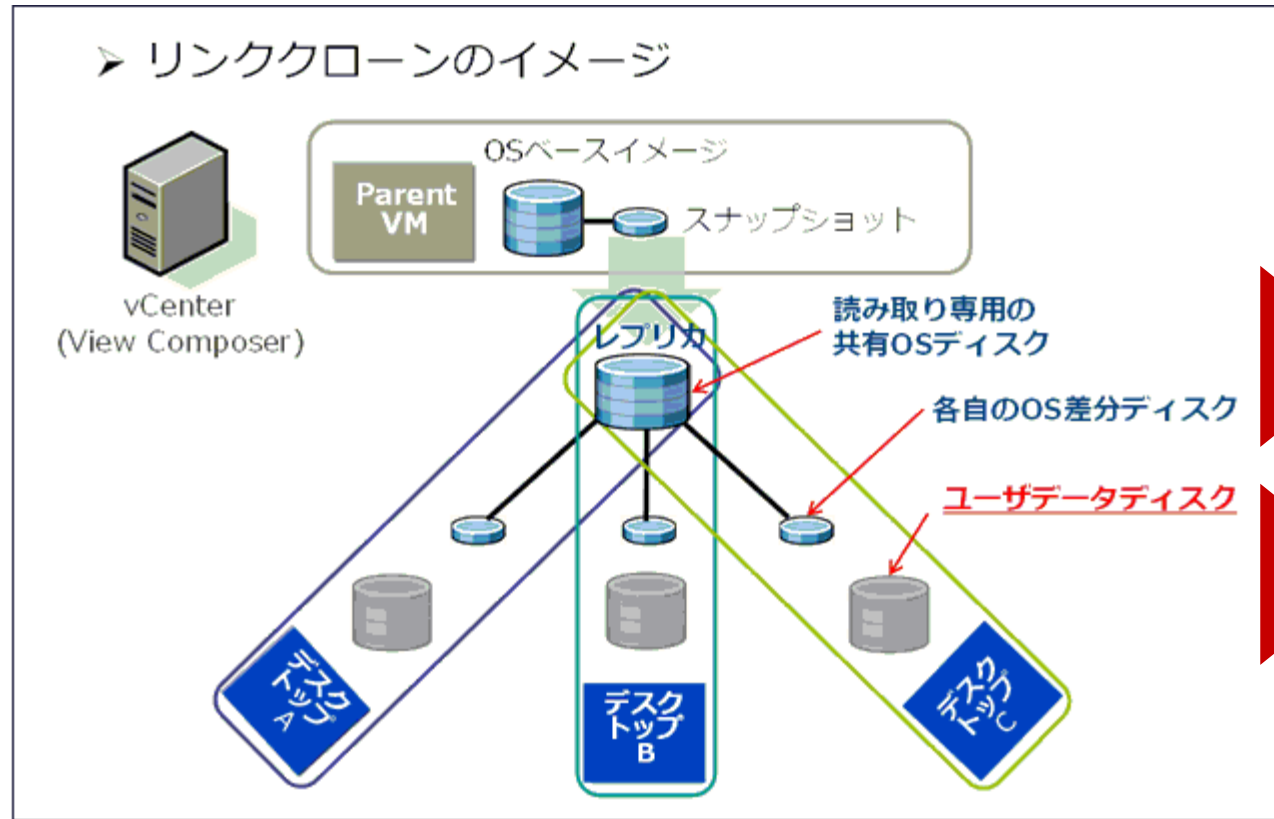
- レ SBC（サーバOSの共用利用）からVDI（各ユーザにクライアントOS割り当て）に方式変換
- ※課題②と同様の解消方式

当社システム特徴（ソフトウェア構成）

ソフトウェア		バージョン
VMレイヤ	vSphere	6.5.1
	VMware vCenter	
	VMware Horizon	7.4.0
	ThinApp	5.2.2
	VSAN	5.5
	App Volumes	2.14
仮想レイヤ(サーバ)	Windows Server	2016
仮想レイヤ(クライアント)	Windows	Windows 10 Enterprise LTSC

現状の最新バージョンを利用

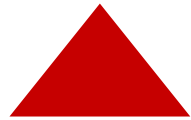
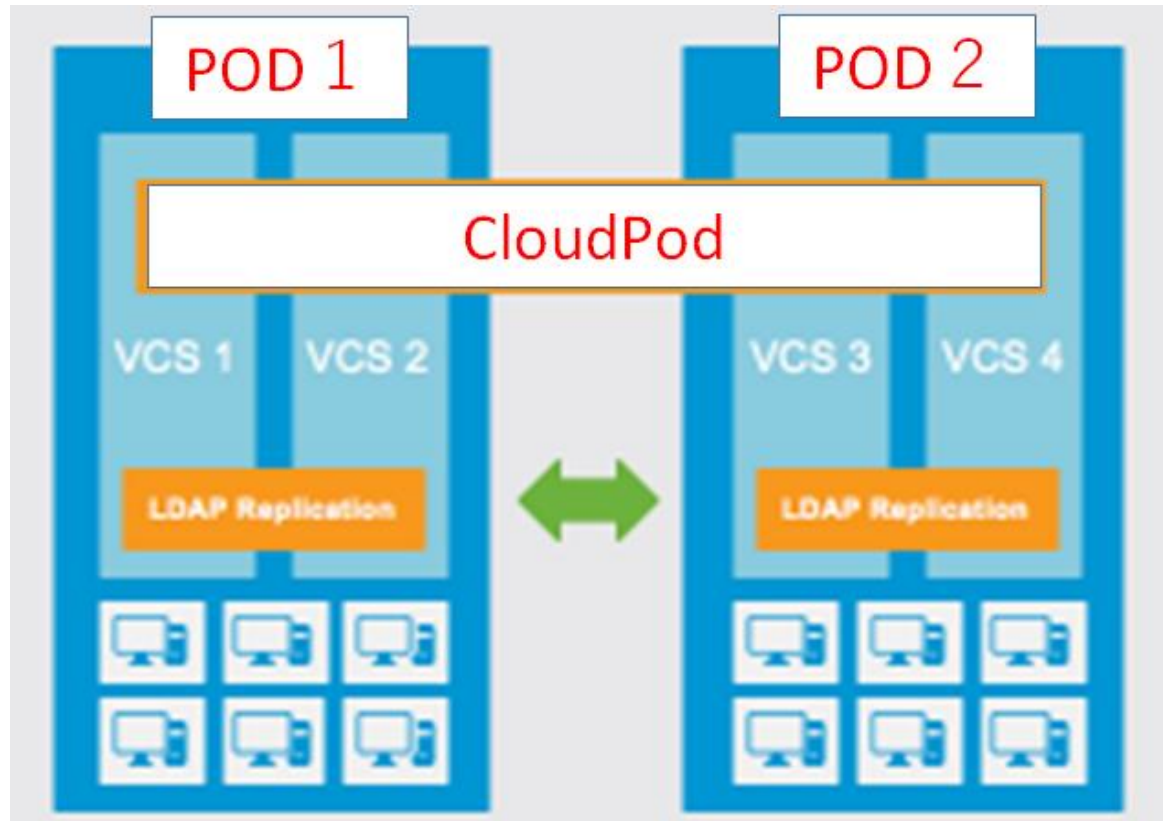
利用テクノロジー①：リンククローン



OSの共有部分は読み取り専用、差分ディスクはサインアウトごとにリフレッシュでセキュリティに優れる

ユーザディスクはSSDストレージを採用し、サインイン集中時間でも利用ユーザにストレスレスの環境を提供

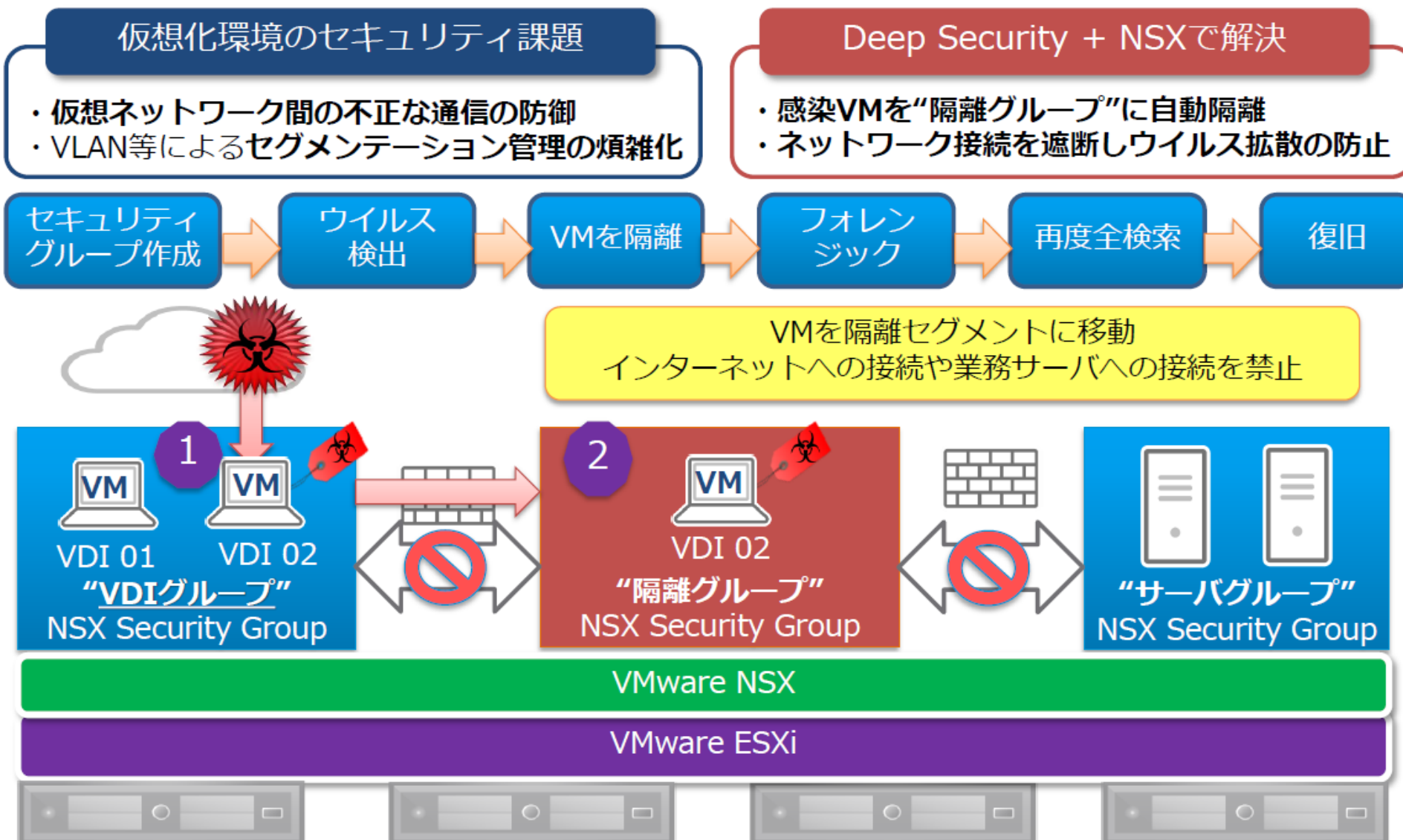
利用テクノロジー②：クラウドポットを利用



CloudPodを利用しない場合、予めユーザが割り当てられたPODしか利用できないが、CloudPodを利用する事で、ユーザは全てのPODを利用可能。
上記で言えばPOD 1 利用ユーザがキャパを超え、かつPOD2に余裕がある場合は、CloudPodを利用しないとVDIが利用できない。

利用テクノロジー③：NSXを利用

■ VMware NSX連携で拡散防止型セキュリティ対策

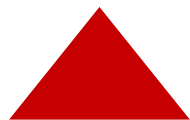
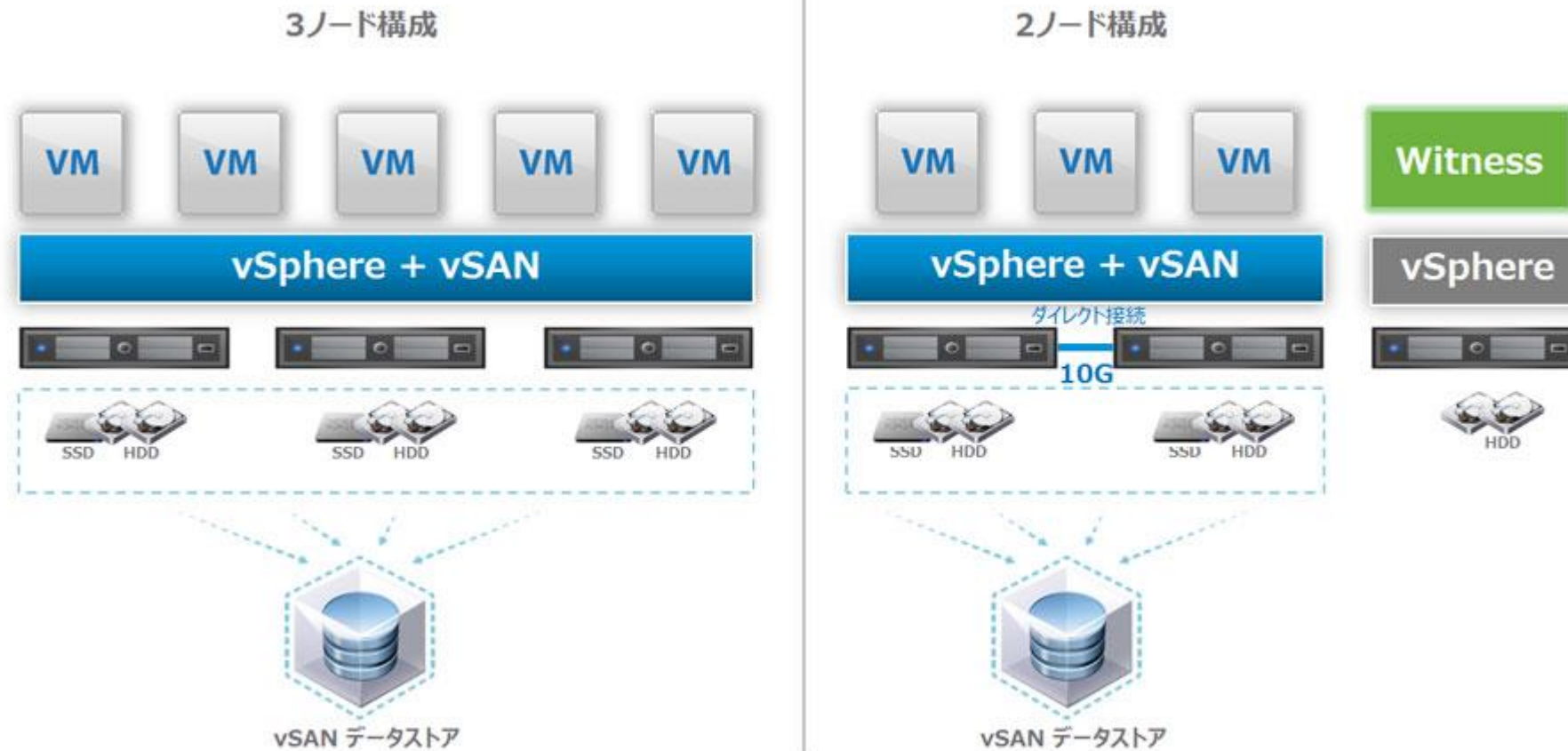


利用テクノロジー④：ソフトウェア配布

AppVolumes、ThinAppを利用して多様なSWニーズに応える

利用ケース	実現方式
全社展開するソフトウェア	リンククローン
部署ごとに利用するソフトウェア	AppVolumes
利用ユーザはニッチでライセンス費用が不要なソフトウェア	
利用ユーザはニッチでライセンス費用が必要なソフトウェア	ThinApp

利用テクノロジー⑤：VSAN



当社ではVDI環境のみではなく、管理系サーバについてもVSAN構成を採用。
現状比でスケールアウトによる拡張が容易になることから採用した。

開発スケジュール

2017年度

2018年度

2019年度

システム化
要件定義

外部設計

内部設計

テスト

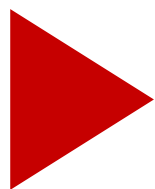
UAT

本番化

ポイント

- 2019年7月～9月で全社展開(5月に先行展開)
- ユーザやオペレータを開発中に巻き込んだテスト
- VMwareのコンサルによる設計レビュー

VMwareニュース



当社の開発については、Vmware社のニュースにも取り上げていただきました。

URL :
<https://www.vmware.com/jp/company/news/releases/2018/vmware-sompo-041018.html>

VMwareニュースリリース

お問い合わせ

損害保険ジャパン日本興亜の次期シンククライアント環境「SOMPOライン」にヴイエムウェアのソリューションを採用
マイクロセグメンテーションによるセキュリティの向上と
新たなアプリケーション配信技術による柔軟なアプリ利用環境を実現

【2018年4月10日（日本時間）東京発】

ヴイエムウェア株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：ジョン・ロバートソン）は本日、損害保険ジャパン日本興亜株式会社（以下、損保ジャパン日本興亜）の次期シンククライアント環境（以下、SOMPOライン）に、ヴイエムウェアのソリューションが採用されたことを発表します。VMware Horizon®ならびにVMware NSX®が搭載されたSOMPOラインにより、損保ジャパン日本興亜の約26,000名の従業員が、より高いセキュリティとユーザ利便性の向上を再立した環境で業務を行えるようになります。SOMPOラインは、2019年7月の運用開始を目指します。

損保ジャパン日本興亜では、今後の保険会社間の競争の激化への対応と、社員の利便性向上、セキュリティの強化、効率的なアプリケーションの活用と運用負荷の軽減を実現するため、既存のシンククライアント環境に代わる新たなソリューションの導入の検討を進めていました。既存システムを含めた複数のソリューションの中から、豊富な稼働実績と高いセキュリティ、利用者への柔軟なアプリケーションの利用環境、のすべてを実現可能であるという点が評価され、ヴイエムウェアのソリューションが採用されました。

SOMPOラインへ採用が決定したヴイエムウェアのソリューション、ならびに評価ポイントは以下のとおりです。

- VMware Horizon
大規模環境における豊富な導入実績を持つデスクトップ仮想化ソリューション
- VMware vSAN™
サーバーの内蔵ディスクを利用したストレージ仮想化ソリューション。コスト削減と障害時の影響範囲の極小化を実現
- VMware NSX
マルウェア感染時の拡散を防止するマイクロセグメンテーション機能により、高いセキュリティを実現
- VMware App Volumes™
利用者にアプリケーション利用の柔軟性を提供

SOMPOラインは2018年1月より導入プロジェクトを開始しており、設計・構築・テストを重ね、2019年7月から順次展開する予定です。なお、SOMPOラインのプラットフォーム製品の提供、構築、及び運用は株式会社日立製作所が担当します。

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 IT企画部 計画推進グループ グループリーダー 藤井 紳也 様 コメント：
「ヴイエムウェアから提案があったソリューションは、既存のシステムからよりユーザーの利便性を高め、セキュリティレベルを向上するという私たちの考え方に合致したものでした。今後、円滑なプロジェクトの推進とサービスインに向け、適切なご支援を継続して提供いただけることを期待しております」

株式会社日立製作所 金融第二システム事業部 金融システム第三本部 担当本部長 高濱 真史 様 コメント：
「次期シンククライアント環境において高いセキュリティレベルや利便性を実現し、システム稼働の遵守と品質の確保を行うために、弊社のプラットフォーム製品と構築／運用保守のサービスに加え、ヴイエムウェアのソリューションを活用してお客様のご要望を実現します。今後のプロジェクト推進においては、弊社が培ったお客様環境での構築／運用保守の経験とヴイエムウェアのプロフェッショナルサービスによるナレッジを融合しながら迅速かつ的確に取り組んで参りたいと考えております」

ヴイエムウェア社について
ヴイエムウェアのソフトウェアは、世界中のデジタル インフラを支えています。ヴイエムウェアのコンピュート、クラウド、モビリティ、ネットワーク、セキュリティの各製品は、世界中で7万5,000社のパートナー エコシステムを通じて50万以上の顧客にダイナミックかつ効率性に優れたデジタル基盤を提供しています。カリフォルニア州パロアルトに本社を置き、ビジネスと社会に貢献するVMwareの革新的なイノベーションの歴史は今年20周年を迎えます。VMwareの詳細は www.vmware.com/jpをご覧ください。

###

VMware、Horizon、NSX、vSAN、App Volumesは、VMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。他のすべての名称ならびに商標は、それぞれの企業の商標または登録商標です。「パートナー」または「パートナーシップ」という言葉は、当社と他社との法的な協力関係を示すものではありません。

AdChoices

開発中における気づき（良かったこと・悪かったこと）

良かったこと

- ・契約後も開発に真摯に向き合ってくれる（売り切りでは無い）
- ・ユーザの声を聞いてくれる（必要SWのサポート延長など）

悪かったところ

- ・Blast利用で画面転送がスムーズにいかない
- ・AppVolumsを利用するとログイン時間が延伸する
- ・ThinApp化出来ないSWがあった場合の対応コストが高い

番外編

- ・サーバが熱い！！

VMwareへの期待事項

・性能向上

エンドユーザはFAT／シンクラの区分けは無い。
敵はFAT端末

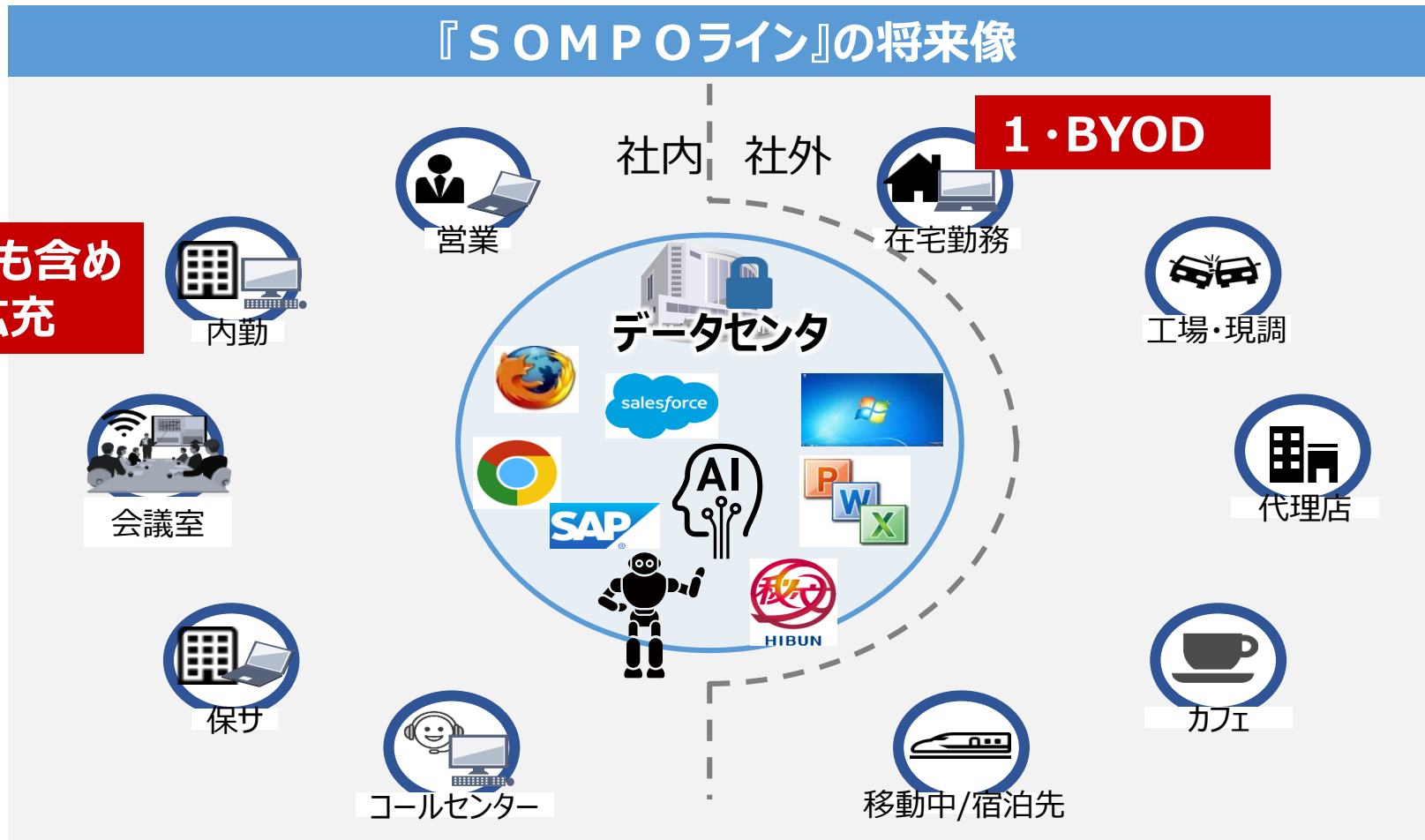
・導入の簡易性

導入時の問題発生率の軽減やユーザ企業が
パートナー社に頼ることなく直感的に導入出来るプロダクトを期待する。

今後の展望

『SOMPOライン』の将来像

2・グループ会社も含めた
利用ユーザの拡充



コンシューマーレベルの利便性とエンタープライズレベルのセキュリティを適正なコストで実現

最後に

ご清聴ありがとうございました